

令和5年 姉妹都市ハンチントンビーチ市訪問

令和5年6月30日から7月7日まで、姉妹都市アメリカ合衆国ハンチントンビーチ市（HB市）を訪問しました。昨年、姉妹都市提携40周年を迎え、本来であれば、周年事業として相互訪問するはずでしたが、新型コロナウイルス禍により、1年延期となっていました。

私のほか、派遣団の構成は、市議会副議長、同総務企画常任委員長、安城市国際交流協会顧問、同会員1人、産業後継者2人、公募市民2人、通訳職員及び随員職員各1人の、総勢11人です。

最大の目的は、HB市との友好の絆をより強固なものとする事です。そのため、私と議員は、HB市長表敬訪問や公共施設視察、HB市姉妹都市協会との交流などの日程をこなし、他の派遣団員たちは、ホームステイ先ホストファミリーとの交流をして



てきました。また、7月4日は独立記念日パレードに全員で参加し、安城市とHB市両市の姉妹都市交流の活発さをアピールすることができました。また、HB市の前にロサンゼルスダウンタウン及びトーランス市に入り、米国の最新事情に触れてきました。

以下、おもな訪問結果を簡単にご紹介します。

補習授業校

あさひ学園トーランス校を視察しました。

補習授業校とは、現地校に通学する児童生徒が、再び日本国内の学校に編入した際に、円滑に適應できるよう、基幹教科の基礎的・基本的知識、技能及び日本の学校文化を日本語によって学習する教育施設です。

同校は、幼稚部（就学前1年のみ）から高校まであり、特に小学部・中学部では、日本の学習指導要領に則った授業を行っています。登校は土曜日のみです。そのため、家庭学習との連携が極めて重要とのことでした。子どもたちは、平日現地校に通い、帰宅してから、補習授業校の宿題（かなりの量があるらしい）に取り組みます。子どもたちには、なかなか大変なようです。

そしてもう一つ、特徴的なのが、保護者の役割です。保護者全員が父母の会会員で、開校日は、図書

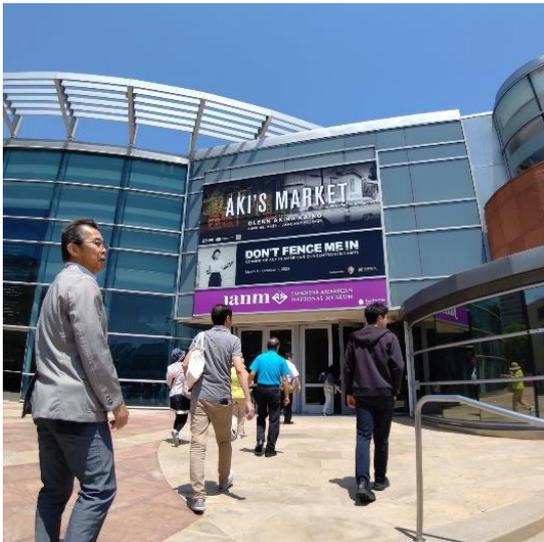


当番やヘルパーなど、さまざまな役割を担うとともに、ベークセール（父母手作りのおやつを子どもたちが買う模擬店）や古本市、趣味の教室などを主催するそうです。さらに、子どもの家庭学習の面倒も見なければならないので、大人の負担も大きいようです。

授業料も月210ドルと、なかなかの金額です。

全米日系人博物館

この施設は、日系アメリカ人の経験を共有することによって、アメリカの民族的・文化的多様性への理解と認識を深めていくことを目的としています。第二次世界大戦中の強制収容という悲しい歴史



を中心
に、豊
富な写
真と資
料



が展示されてい
ました。長い年
月を要したもの
の、アメリカ政
府は強制収容が
あったことを公
式に認め、賠償
金を支払いました
が、日系人たち
が辿った苦難の
歳月を想うと、
胸が痛みます。
ただ、自分たち
の過去を正視し
、過ちを繰り返
さないためにこ
の博物館を設け
たアメリカとい
う国の姿勢は、
素直に評価した
いと思います。

リトルトーキョー

日本の生活、文化がロスの街にしっかり根付いているものと期待して訪れましたが、広がっていた現在の光景は、「怪しい日本」でした。日本を現地の人々がイメージする姿で不正確に再現したテーマパークのようで、残念でなりません。恐らく、日本人・日系人以外の資本が幅を利かせているものと思われま

す。せっかくの魅力的な日本の食、景色などの文化をきちんと伝え、理解してもらうため、日本人自身の努力が必要と感じました。



ダウンタウン

市庁舎、ディズニーシアター、Crypto.com アリーナなどを見学してきました。当日は、ロサンゼルス・コンベンションセンターで、アニメ・エキスポが開催されており、コスプレ姿の何万人(?)という人々が集まっていました。ほとんどが日本のアニメやゲームなどのキャラクターで、会場外壁の大横断幕もカタカナで「アニメ エキスポ」とあり、日本アニメの人気ぶりがよくわかりました。国が進めるクールジャパン戦略の主要コンテ



Crypto.com アリーナ



ロサンゼルス・コンベンションセンター

ンツとして、アニメの持つ力をまざまざと見せつけられた気がします。

Crypto.com アリーナは、NBA ロサンゼルス・レイカーズの本拠地であり、建設・運営しているアンシュッツ・エンターテインメント・グループ (AEG) は、愛知県が計画する新体育館 (アリーナ) のコンソーシアムに参画しています。八村塁選手がレイカーズのメンバーとして愛知県新アリーナでプレーしてくれることを期待します。

ハンチントンビーチ市シニアセンター

HB 市に到着し、最初に向かったのがシニアセンターです。ここで、同市姉妹都市協会主催のウェルカム・ランチョンと歓迎レセプションが行われました。HB 市グレイシー市長代理はじめ市職員、交流協会ナカバヤシ会長・役員、そしてホストファミリーが参加し、友好のしるしに美術作品を交換しました。

歓談の中で、姉妹都市協定の更新がしばらく行われていないことが話題になり、この秋に HB 市が来日するときに調印することで合意しました。



グレイシー市長代理と握手 中央はナカバヤシ会長



セレモニー終了後、シニアセンターを案内していただきました。同所は、市立ですが、運営のほとんどをボランティアが担っているとのことでした。職員は 8 人、パート 40 人、ボランティアは 300 人だそうです。シニアと名は付いているものの、18 歳から利用可能な設備もあり、施設の

充実ぶり多用途ぶりには目を見張るものがあります。健康相談、手芸、カードゲーム、食事宅配など一般的な高齢者支援サービスにとどまらず、旅行やダンス、トレーニングジムに始まり、医院への送迎待合室、ランチのデリバリー申し込み、中庭でのパーティ、音楽会にいたるまで、本当に多様なサービスが充実していました。

独立記念日パレード

HB市のパレードは、全米でもミシシッピ川以西で最も規模の大きいものと言われており、abcが全米に中継しています。数キロメートルの道を車、馬、徒歩などで数時間かけて進みます。私たちは、HB市姉妹都市交流協会チームとして参加、先頭のオープンカーにナカバヤシ会長、曾根健孝・在ロサンゼルス日本国総領事と夫人、そして私が乗車、続くワゴン車に協会役員と訪問団員、さらに



曾根総領事夫妻と筆者が後席に乗り、助手席にはナカバヤシ会長

3台目のトラックの荷台に両市の交換学生が分乗し、乗車し切れない人は徒歩でスタートしました。

沿道を埋め尽くす人々は、皆とても温かく私たちに声を掛けてくださいました。両市の41年にわたる姉妹都市交流がしっかり根付いているのかなと、うれしい気持ちになりました。



ハンチントンビーチ市庁舎

HB市のトニー・ストリックランド市長を表敬訪問しました。HB市では、7人の市議会議員が選挙され、その中から1人が市長に就く仕組みです。

市長室でのあいさつの後、議場を見学しました。正面に議員席が横1列に並び、市長席はその中央です。そして議員席に正対する形で傍聴席が階段状に、見渡したところ100席ほどありました。日本の自治体では例のない規模です。また、市民が議場で



中央がストリックランド市長 右隣グレイシー市長代理

直接発言することもあるようです。このように、日本と比べ、アメリカの方が民主主義が深化していることを感じました。



市警パーラ局長（右から3人目）

次に市民交流担当部署を案内されました。その廊下には、これまでに安城市から寄贈した多くの写真、書、絵と、姉妹都市協定書が飾



これまでに安城市から贈られた数々の作品

られ、41年間の交流の歴史を偲ぶことができます。

最後に市警本部を訪れ、所長と面会、通信指令室や警察車両などを見せていただきました。警察の予算は、市全体の3分の1ほどを占めるということで、アメリカでは市民の安全を守るための財政負担が大きいようです。

在ロサンゼルス総領事公邸

訪米最後の夜に、曾根健孝・在ロサンゼルス日本国総領事から、公邸での晩さん会にお招きいただきました。



セキュリティの厳重な門を通り抜け、玄関前でお出迎えていただいた曾根総領事ご夫妻に屋内へと案内されました。白い壁にはたくさんの日本画と書が掛けられ、現地の要人たちに日本文化を伝える設えとなっています。ウェルカムドリンクを受け取り、庭へ出ると、そこには石灯籠が据えられ、日本の風情を感じることができます。庭の奥には、やっぱりというべきか、プールがありました。



曾根総領事（中央右） 婦人（左から2人目）

屋内に戻り、見た目にも美しい和食と愛知の日本酒でおもてなしいただきました。デザート皿には、安城市とHB市のシンボルマークがさりげなくあしらわれ、細やかな気遣いに頭が下がる思いでした。

おわりに

日差しは強いものの、カラッとした爽やかな気候の下、アメリカ西海岸は、とてもフレンドリーな人が多いと感じました。見ず知らずの東洋人に対して、気さくにあいさつのことばをかけてくれます。レストランやスーパーマーケットなどの店員も、とてもにこやかで、過去に訪れたことのある東海岸とは対照的でした。特に姉妹都市ハンチントンビーチ市は、ゴミや落書きが見当たらず、非常に美しいまちで、治安の良さがうかがえます。アメリカ各地で生活経験のあるナカバヤシ会長が、退職後の住処にここを選ばれたのも頷けます。

ただ、アメリカの物価高は恐ろしいばかりでした。特に日本人旅行者にとっては、さらに円安が追い打ちをかけ、厳しいものとなっています。そんな中であっても、アメリカの人々は消費意欲が落ちていないようで、経済の力強さを実感しました。

気にかかるのは、現地日本人、日系人のコミュニティが縮小しているということです。日本からの留学生も、他のアジア諸国と比べ押し寄せられ気味だと聞きます。日本の若者がもっと世界に飛び出して活躍できるよう、環境づくりに力を入れる必要性を痛感しました。姉妹都市との交換学生の取り組みが、安城市の若者にとって、世界に目を向けるきっかけとなり、国際派人材へと飛躍するジャンプ台とならんことを期待してやみません。



ハンチントンビーチ市（上下とも）